

全小社研

発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都新宿区若松町13-1
発行人 豆田啓二
編集人 川崎康雄

大阪大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都新宿区立余丁町小学校校長

豆田啓二



全国小学校社会科研究協議会(全小社研)第八十四回理事会がこの六月に開催されました。大勢の顧問の先生方のご出席、お励ましのもと、各事業及び研究活動内容が策定され、ここに本年度全小社研の活動がスタートいたしました。

さて、この三月には新しい指導要領の告示がなされ、六月には移行措置案も出されました。各都道府県にあっても、二十三年度の全面実施に向けその準備等に尽力されていることと思えます。これまで同様、「生きる力」

の育成の基本方針は変わりません。もとより「生きる力」の育成は、全教育活動を通して総合的な力として身に付けていくものですが、その基盤となる体験的な学習や問題解決的な学習を重視する社会科の役割はとりわけ大きいと思います。

今、社会は、技術の進歩に伴い様々な情報や知識が瞬時に全世界を駆けめぐり、知的にも技術的にも国際競争の激しい時代となっております。また、地球環境やエネルギー問題、食料問題など地球規模で解決していかなければならない課題も多く、グローバルな視野を持ち他と協調して事に当たる力が大切となります。このような社会に生き抜くためにも、子どもが自らを見つめ、自己を確立し、社会の

一員として力強く生き抜く資質や能力を培っていくことが求められています。

このような折りに、第四十六回全小社研大阪大会が十一月十三日、十四日の両日にわたって開催されますことは、誠に意義深いことでもあります。

大会主題を『社会とつながり、未来を拓く子どもを育てる社会科学習』とし、求める児童像を、子ども一人一人が社会とのかかわりを大切にし、人間の働きや知恵に学び「共に問題を追究し、実感的に事象の意味を捉え、学びを活かす子」としています。自然や社会事象に主体的に関わり、その意味を追究していく学習の大切さを示し、社会の一員として力強く生き抜いていく資質や能力の育成を目指しています。これは、今後の社会科教育の在り方を示すものとして貴重な提案であります。

大阪大会実行委員長の阪東本得校長先生を中心とした大阪府小学校社会科研究会の皆様にご意見を表するとともに、全国から多くの方々がこの大会に参集され、その成果が各地域で社会科授業の創造に生かされるよう期待しています。

ますます重要になる社会科教育

全国小学校社会科研究協議会副会長
石川県金沢市立小立野小学校校長

砂田武嗣



増加はわずかでした。

授業時数がどうであろうと、地域の一員としての意識や日本人としての自覚を持ち主体的に生きる資質や態度は社会科でしか育てることはできません。

去る七月二十八日未明から明け方にかけて降り続いた大雨は、金沢市内を流れる浅野川の市内中心部での五十五年ぶりの氾濫を招きました。幸いにも死者は出ませんでした。幸いにも住宅が倒壊や床上・床下浸水などの被害を受けました。

この水害のあと、復旧作業が地域住民や市民の手で行われま

した。その中にボランティアで作業に加わる中学生の姿が数多く見られました。日本各地で青少年の痛ましい事件が続く中でとても明るいニュースでした。

ところで本年三月に新しい学習指導要領が告示されました。七月にはその解説が文部科学省のホームページに掲載されました。その内容から理数教科重視が伝わり、社会科の授業時数の

また、地図や統計などの資料から必要な情報を読み取り(資料活用)、社会事象の意味や意義を解釈し(社会的思考)、社会的事象の特色や相互の関連をとらえ、説明したり、自分の考えを論述したりする(表現)、いわゆるPISA型学力の育成という点でも社会科の果たす役割は大きいといえます。

今後、社会科改定の基本方針等をしつかりと理解し、限られた授業時数の中でのねらいや指導内容の検討が必要です。それらをつまえて授業の進め方の改善に取り組んでいくことが求められます。子供たちの生活に根ざした教材を開発し、本音で見えたたかわせ、よりよい社会のあり方を追究する授業づくりが今まさに求められています。

第四十六回全国小学校社会科研究協議会大阪大会

『社会とつながり、

未来を拓く子どもを育てる社会科学習

—人間の働きや知恵に学ぶ社会科学授業を重視して—

大阪大会実行委員長 阪東 本得



大阪市がオリンピック誘致を北京市と競っていた頃、全国小学校社会科研究協議会第四十六回研究大会の大阪大会が理事会で承認され、十数年が経ちます。オリンピックの大阪開催は夢となりましたが、全小社研の大阪開催はもう直ぐです。全国の社会科教育に取り組む同人の皆様、心から「水の都大阪」での研究大会をご案内します。

今、各学校では何よりも先ず「確かな学力」、そしてそれを基盤とした「生きる力」の育成が求められています。特に「確かな学力」については、基礎的・基本的な知識・技能や見方・考え方を「習得」するだけではな

く、習得した知識・技能や見方・考え方を「活用」できる力が、更にはそれらを基盤に新たな「探求」を進める力が、どの子どもにも身に付くようにすることが求められています。

しかし、子どもを取り巻く学校内外の状況は、決して楽観できるものではありません。少子化・核家族化の進行と人の温かさや知恵・工夫などに触れる機会の減少、若者に顕著な規範意識の低下と感情に流されやすい思考や判断に基づく行動、情報化社会の進展による主体性の欠如と人間関係の希薄化、そして学習意欲や学力・体力の低下等々、問題は多様且つ複雑な様相を呈しています。

このような折、本年三月には「新しい学習指導要領」が告示されました。この新しい学習指導要領の具現化を図るためには、新たな理論の構築とともに、私たち教師が自らの社会科学授業を再点検し、互いの経験を生かして工夫・

改善を加えながら、子ども達に学習することの楽しさや問題解決の喜びを体得させることが実践的研究の重要な柱の一つになると考えます。

大阪大会の研究主題「社会とつながり、未来を拓く子どもを育てる社会科学習—人間の働きや知恵に学ぶ社会科学授業を重視して—」は、人間尊重の教育を基盤としてきた大阪の社会科学研究を継承しつつ、今日的な問題状況や教育課題を踏まえて設定したものです。社会は、「人・物・こと・時間・空間」等から成り立ち、それぞれに相互のつながりが存在しますが、私たちはこの研究を通して、とりわけ、人とのつながりを重視しました。そして、人間の働きや知恵に学ぶ社会科学授業を通して、社会的現象についての客観的な事実の認識と、社会的現象の意味や価値にかかわる本質的な概念の認識を育て、学習の成果をこれからの社会生活に生かして主体的に社会参画を行う力や態度を育成したいと考えています。

具体的には、特に次の四つに視点を置き、実践的な研究を進めています。

【視点一】人間の働きや知恵に学ぶ教材と指導計画
(一) 子どもと社会をつなぐ教材

の開発

(二) 主体的に追求し、学びを自分の生活や生き方に活かす指導計画

① 基礎的・基本的事項の「習得」と「活用」の力を高める指導計画

② 小単元における四段階の問題解決の学習過程

【視点二】問題追究の質を高める資料活用と表現力の育成

(一) 資料を多面的に読み取り、活用する力

(二) 表現する力をはぐくむ表現活動

【視点三】共に追究し、考えを高め合う指導法

(一) 「個人での思考」を促す指導

(二) 「個人での思考」をもとに「集団での思考」を促す指導

【視点四】学びをささげる評価

(一) 子どものつまづきをとらえ、指導・支援に活かす評価

(二) 授業改善に活かすペーパーテストによる評価

(三) 情意的側面の評価

全国の皆様、是非十一月には、大阪の地にお越しいただき、皆様の実践をもとに社会科学教育を語り合いたいと思います。心よりお待ちしております。

第一会場

大阪市立聖和小学校

校長 阪東 本得

一 学校紹介

本校は、上町台地の南に位置し、校区のほぼ中央を南北に難波宮の「朱雀大路」が通り、西は日本最古の官寺「四天王寺」に接する、歴史と文化に育まれた地域です。交通の便は、JR環状線「寺田町」下車、北西へ徒歩六分。

二 研究主題

自ら調べて考え、問題解決に取り組む子どもを育てる
— 社会とつながり、人間の働きや知恵、生き方に学ぶ社会科学を重視して —

三 研究の概要

本校では、左記のように研究の視点を設定し、実践的な研究を進めてきました。

(一) 人間の働きや知恵、生き方に学ぶ教材の開発

ここでは、目標の観点からだけではなく、子どもの観点から「親しみがあるか」「自らの手で追究できるか」「人間の知恵や生き方が具体的にわかめるか」等、教材開発のチェックポイントを提案し、開発した教材の授業(例えば、四年「天王寺舞楽を受け継いだ

人々」を公開します。

(二) 「習得」と「活用」を踏まえた指導計画の工夫

ここでは、「習得型の授業」(基礎的な知識・技能や見方・考え方の育成を重視)と「活用型の授業」(自ら学び自ら考える力の育成を重視)との違いを仮説的に設定し、「習得」から「活用」への流れを想定した指導計画のあり方と授業(例えば、五年「環境を守る」)を公開します。

(三) 問題解決の学習過程を踏まえた授業の構想

ここでは、心理学の知見に学び、内発的な「問い」に始まる問題解決の四段階の学習過程を提案します。四段階とは、「つかむ」↓「しらべる」↓「かんがえる」↓「ひろめる」で、公開授業(例えば、三年「釣鐘饅頭をつくる人々のしごと」)もこの四段階を基本としています。

(四) 対話を生み、思考を深める指導法の工夫

ここでは、個々の子どもに自らの考えをしっかりと持たせる指導のあり方、また、互いの相違点や類似点に着目し、みんなで考えを広め・深める集団思考のあり方を提案し、授業(例えば、六年「十五年戦争」)を公開します。

第二会場

大阪市立鶴橋小学校

校長 大賀 拓司

一、本校の概要

校区には、由緒ある弥栄神社・御幸森神社があります。また、

桃谷商店街やコアタウンなどもあり、住宅地と商業地の両面を持つ伝統が息づき、文化交流のさかんな地域です。

二、研究主題と研究の概要

大会主題を受け、研究主題を「意欲的に課題に取り組み主体的に活動する子どもを育てる」地域や社会とつながり、人間の働きや知恵に共感する授業を通して」と設定し、以下の点を中心に研究を進めています。

(一) 小単元四段階「つかむ・調べる・考える・ひろめる」による授業の展開

子どもは、「調べる」段階で社会的現象を観察したり調べたりして社会的現象の中身を明らかにします。「考える」段階では、調べたことをもとに、社会的現象の持つ意味や背景、因果関係などについて考え、課題の社会的意味を明らかにします。

本校では、①順序をつける②軽重をつける③ひとつ選ぶ④組み

み合わせる⑤関係づける⑥削除する等の活動を「考える」段階に位置づけ、子どもの考える活動を充実しようとしています。

(三) 「大阪・鶴橋」を生かした地域教材の開発

大阪にもあるが他の地域にもある一般的地域教材(図書館等の他、「大阪・鶴橋」に見られる特色ある素材の教材化(日清食品、文楽、朝鮮通信使、コアタウン等)を試みています。

(三) 人間の働きや知恵に共感し学ぶ資料と活用

資料は、絵図・写真・表やグラフ・文書など多様ですが、各資料の特性を考慮すると共に、①提示の時期②資料の量③資料の質に留意しています。

(四) 人間の働きや知恵に共感し学ぶ指導法

体験的な活動は子どもの追究意欲を高めるのに有効な活動ですが、無目的な活動に終わらないよう、体験を基にした思考活動や表現活動を重視するようにしました。また、子どもの思考活動や言語活動の充実を図るため、「話し方や聞き方の指導」「ノートを活用」「板書の工夫」等に取り組んでいます。

第三会場

大阪市立常盤小学校

校長 小西 敏明

一、会場校について

本校は大阪の南の玄関、天王寺の南に位置し、交通の要衝地にあります。校区には、文の里の地名通りに多くの学校があります。近年、マンション建築により児童数が増加し、大阪市内最大規模の学校となっています。

過去においては、第二十五回全小社研大阪大会の第三会場校として学校公開をしており、この度、二十一年ぶりの全国大会となります。

二、研究の概要

本校では、大阪大会の大会主題を踏まえ、新学習指導要領の根幹である習得・活用・探究という学習活動の流れの基盤となる言語に関する能力の育成を見通し、調べ考え表現する力を重視して取り組みを進めています。

そして、人の営みに学び、進んで社会にかかわろうとする子どもの育成をめざしています。

三、公開授業の見どころ

三年「なにわ伝統野菜あめをつくる人びとのくらし」

あめ作りを通して、なにわ伝

統野菜の普及に奮闘している町工場の人々の工夫や努力に学ぶ授業を公開します。

四年「大阪の発展につくした緒方洪庵と適塾」

大阪や日本の発展に尽くした緒方洪庵の医者と教育者としての業績に学び、自らの生き方をふりかえる授業を公開します。

五年「液晶テレビ工場とわたしたちのくらし」

今日急成長している液晶テレビの環境への工夫や海外工場の役割を、具体的な資料をもとに考える授業を公開します。

六年「新しい日本と人びとの願いー大阪万博と日本の発展ー」

大阪万博を通して日本の発展を、聴き取り調査の資料や対話によって、考え深め合う授業を公開します。

この他、生活科においては、三年以降の社会科につながるよう、自分と身近な人びとや社会とのかかわりについて取り組みます。

一年『ありがと』がいっぱいーこうえんたんけんたいー

二年「もっと知りたいな まちのこと」

全小社研事務局だより

全小社研事務局長 小林 勇司



平成二十年六月六日(金)日本出版クラブ会館(東京)において、

第八十四回理事会が開催されま

した。豆田啓二会長の挨拶に引

き続き議事に入り、十九年度の

事業・決算が承認されました。

豆田啓二会長をはじめ二十年度

役員が選出されるとともに、二

十年度事業・会計予算が承認さ

れました。

- 会長 豆田 啓二(東京・新宿区立余丁町小学校)
- 副会長 久保田福美(東京・杉並区立高井戸小学校)
- 高橋 享治(宮城・仙台市立福室小学校)
- 河合 義昭(神奈川県横浜市立富士見台小学校)
- 砂田 武嗣(石川・金沢市立小立野小学校)
- 服部 政和(名古屋・名古屋市立大宝小学校)
- 阪東 本得(大阪・大阪市立聖和小学校)
- 河内 澄行(山口・下松市立久保小学校)
- 高橋 英式(香川・高松市立屋島西小学校)
- 重住 昌志(福岡・福岡市立若宮小学校)
- 大谷 貢(神奈川県横浜市立桜井小学校)
- 伊東富士雄(東京・杉並区立三谷小学校)
- 下川 幸雄(東京・中央区立日本橋小学校)
- 各地区団体組織表による
- 小林 勇司(東京・千代田区立麴町小学校)
- 平本 茂(東京・東大和市立第二小学校)
- 黒木 信友(東京・目黒区立大岡山小学校)
- 泉 長頭(東京・世田谷区立赤堤小学校)
- 川崎 康雄(東京・足立区立鹿浜西小学校)
- 調査研究部長
- 事務局次長
- 事務局長
- 常任理事
- 会計監査
- 会報部長

ついで、第四十六回大阪大会

(十一月十三、十四日)の概要第

二次案内)の説明と第四十七回神

奈川大会の準備状況の報告があ

りました。最後に、平成二十五

年度『年度大会』を、福岡で行

うことが承認されました。

研究論文の募集

全小社研では、毎年、研究主

題を設定し、研究論文を募集し

ております。今年度も、文部科

学省教科調査官 安野 功先生

方により論文を審査し、研究集

録第四十四集として刊行予定で

す。今年度は、左記の研究主題

で、研究論文の募集を行います。

一 研究主題

「調べて、考え、表現する力を育てる社会科指導の工夫」

の

(5) ティームティーチング等の

多様な指導方法を効果的に導

入したものを

(6) 学んだことを実社会、実生

活等に活用したものを

(7) 基礎・基本の確実な習得と

応用、発展を図ったもの

三 応募要項

(1) 論文字数

七千二百字(A4 40字×30行×6枚)

(2) 締切

平成二十一年 一月三十日(金)必着

(3) 応募方法

官製はがきに、次の事項を

記入の上、平成二十年十二月

十九日(金)までに事務局長ま

〒一〇二一〇〇八三

東京都千代田区麴町二一八

千代田区立麴町小学校長

小林 勇司

TEL 〇三―三二六三―七三三七

Fax 〇三―三二八八―三三四一七

個人会員募集

全小社研では、中央研究団体

として、小学校社会科発展のた

め、全国各地の研究団体(正会員)

と個人会員(準会員)とで研究活

動を続け、その成果を積み上げ

てきました。今年度も、個人会

員への加入にご協力ください。

個人会員は、準会員として会

費を負担することにより、研究

論文への応募資格を得ると共に